

2019(平成31)年度版学部・大学院等シラバス（授業計画書）作成要領

2019年度に開講する全ての授業を対象とし、2019年度版シラバス（授業計画書）を次のとおり作成する。〔※関係法令：大学院設置基準第14条の2（平18文科令11号）、大学設置基準第25条の2（平19文科令22号）、学校教育法施行規則第172条の2（平22文科令15号）〕

1. 作成期間

(1) 学務ネットによる入力期間

2019（平成31）年2月1日（金）から2月28日（木）まで

本学ホームページ→キャンパスライフ→学務ネット（ログイン）

URL <https://iris-info.office.aichi-edu.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp>

(2) 代行入力の受付期間

2019（平成31）年2月1日（金）から2月28日（木）まで

教務課教務情報係 E-mail kyoumu@aecc.aichi-edu.ac.jp

2. 作成方法

学生にとって、より理解しやすく、より見やすくすることに十分留意の上、学務ネットから情報を入力するものとする。その際、

様式・項目及び記述内容については、別添1「シラバス作成上の留意点」

作成方法については、別添2「学務ネットによるシラバス作成について」

を、それぞれ参照のこと。

※ 非常勤講師担当の授業については、関係の教務担当委員又は任用を依頼した組織の世話役の教員から、シラバス作成を依頼してください。

3. シラバスの公開

(1) 1年生は、入学当初学務ネットの利用が困難なため、本学ウェブサイト上で一般公開しているシラバス検索システムのURLを周知するとともに、1年前期開講授業科目については、所要数の閲覧用冊子を教務課等に配備する。なお、学務ネットからのシラバス利用方法については、「情報教育入門」（1年前期）の授業において指導する。

(2) 2，3，4年生，大学院生は学務ネットを利用し閲覧する。

4. シラバスの改善について

記載の確認については、教務企画委員会又は教務課が直接確認を行うことが困難なため、入力期限後の3月上旬に大学院教育学研究科運営専門委員，教育実践研究科会議議長，時間割編成専門委員会委員（及び共通科目コーディネーター）に記載の有無等の確認を依頼し，前期授業開始前までに前述の委員等から，記載の有無について教務課へ報告をお願いします。

シラバス作成上の留意点ー2019（平成31）年度用ー

1. 2019 年度に開講するすべての授業について、シラバスを作成します。
2. 作成する項目は、①授業目標、②授業計画、③（授業の）内容・方法、④授業外学習指示、⑤教科書、⑥参考書、⑦評価基準・方法、⑧備考とします。「開講年度」から「教室（講義室）」までの項目は、教務課で記入しますので、記入の必要はありません。なお、「教員氏名」欄には代表教員（成績報告者）の氏名のみが記載されます。
3. 同一授業科目を複数教員で並列開講する場合は、担当教員のどなたでも入力できますが、必ず全担当教員間で、同一授業科目（同一カテゴリー）として共有する授業目標や評価基準等の有無を担当教員間で確認した上（2018 年度に科目別 F D を実施している場合は、その成果を反映させる形）で入力してください。なお、確認のための話し合いは授業担当責任組織が主宰するものとし、非常勤講師には任用前に合意を得ておくものとしてください。また、以下の件についてもご留意ください。
 - 「教職実践演習」に係る授業（2010 年度以降入学生向け教職科目等）においては、該当する授業科目の担当教員間で「履修カルテ」の評価項目（別紙その1）に対応する到達目標と評価基準を検討の上、学生に分かりやすく具体的に記載してください。
 - 「教科内容（教科研究）科目」においては、2009 年 6 月教授会で確認した科目ごとの教育目的・目標（別紙その2）を受け、担当教員で共有する教材等の有無を確認の上、授業における具体的な到達目標などを記載してください。
 - 「教科教育法（教科教育）科目」においては、学習指導案に関する内容をできる限り盛り込んでいただくようお願いします。
4. 担当者未定の授業のシラバスについては、「シラバスの変更の可能性ある」旨を「備考」欄に記載し、担当者未定のままシラバスが作成できる場合は、原稿を教務課へ提出してください。なお、担当者決定後に、担当者本人が確認し、必要があれば適宜修正するものとします。
5. 「項目①授業目標」については、「(1) 知識/理解、(2) 思考/判断、(3) 関心/意欲、(4) 技能/表現、(5) その他 ()」の5つの観点のうち、1 観点以上についての授業目標（学生全員に努力することを期待する主要な行動目標・到達目標）を記載してください。
6. 「項目②授業計画」については、授業目標を実現するための授業内容（概要）の記載をしてください。教員免許の取得に関わる科目については、「一般的・包括的内容を含むもの（教科に関する科目）」、「各科目に含めることが必要な事項（教職に関する科目）」など、法令に定める基準を踏まえて記載するよう、留意してください。〔最大全角 1.500 文字〕

※平成 31 年度から免許法改正に伴い、科目区分が大括り化されたため、下記一覧を参照し記載してください。

【平成30年度】	
各科目に含めることが必要な事項	
教科に関する科目	
保育内容の指導法	
各教科の指導法	
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種の機会の提供等	
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	
教育課程の意義及び編成の方法	
道徳の指導法	
特別活動の指導法	
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	
生徒指導の理論及び方法	
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	
進路指導の理論及び方法	
幼児理解の理論及び方法	
道徳及び特別活動に関する内容	
教育実習	
養護実習	
栄養教育実習	
教育実習	
養護実習	
教職実践演習	
教科（養護、栄養に係る教育）又は教職に関する科目	
養護に関する科目	
栄養に係る教育に関する科目	

【平成31年度】	
各科目に含めることが必要な事項	
教科及び教科の指導法に関する科目	(幼稚園) 領域に関する専門的事項
	(小学校) 教科に関する専門的事項 ※「外国語」以外
	(中学校・高等学校) 教科に関する専門的事項 ※「外国語（英語）」以外
	(小学校) 教科に関する専門的事項 ※「外国語」
領域及び保育内容の指導法に関する科目	(中学校・高等学校) 教科に関する専門的事項 ※「外国語（英語）」
	(幼稚園) 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
	(小学校) 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ※「外国語の指導法」
	(小学校) 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ※「外国語の指導法」以外
教育の基礎的理解に関する科目	(中学校・高等学校) 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
	<複合科目・複合領域>
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
	道徳の理論及び指導法
	総合的な学習の時間の指導法
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動の指導法
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
	生徒指導の理論及び方法
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法
	幼児理解の理論及び方法
	（養護教諭・栄養教諭）道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容
	教育実習
	養護実習
	栄養教育実習
教育実践に関する科目	学校体験活動（「特別支援教育に関する科目」における学校体験活動を含む。） 教職実践演習
大学が独自に設定する科目	施行規則改正前の「教科（養護、栄養に係る教育）又は教職に関する科目」として開設している科目（専修免許状課程の科目を含む。） 大学が独自に設定する科目（新設科目）
養護に関する科目	
栄養に係る教育に関する科目	

7. 「項目③内容・方法」については、15回分の授業計画を記載してください。この場合、教室での定期試験は当該回数に含めないでください。

各回の内容に関し、同様のテーマを複数回にわたり扱う場合には、

第〇回 ○○○○(1)

第〇回 ○○○○(2)

のように記載するのではなく、例えば、

第〇回 ○○○○(1) △△△, ×××

第〇回 ○○○○(2) □□□, ◇◇◇

のように、回数ごとに扱うテーマのキーワード等を記載してください。

また、オムニバス方式などのように複数教員担当の場合、当該回の担当教員名全員を括弧書きで記載してください。〔最大全角 800 文字〕

【2018（平成30）年度からの変更点】

各回の授業でアクティブ・ラーニング形式の授業を行う場合には AL 欄に*を、英語により授業を行う場合には EN 欄に*を入力してください。

	AL	EN	内容・方法	(担当教員)	授業外学習指示
第〇回	*		○○○○		
第〇回		*	○○○○		
第〇回	*	*	○○○○		

参考 本学が目指すアクティブ・ラーニング

〈アクティブ・ラーニングの定義（文部科学省、2012）〉

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決型学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングである。

【主体的な学びの視点】

授業内容等から学修者自らが課題を発見し、その課題の解決に向けて、問題解決学習、体験学習、調査学習等を行うことで認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力が育成されている。

【対話的な学びの視点】

学修課題及び修得した教養、収集したデータ、体験等について、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を行うことで、より個人の学びが深まっている。

【深い学びの視点】

単に断片的な知識や技能等を習得するのではなく、主体的及び対話的な学びの過程で、学修者の思考が活性化されることで、知識や技能等の関連が図られ、新たな概念化することができている。

【教員及び教育を支援する専門職の養成としての視点】

学修者が AL の価値を実感することで、教員及び教育支援専門職に就いたときに、自らが児童・生徒に主体的に対話的な学びを実践できるようになっている。

【2019（平成31）年度からの変更点】

担当する授業科目に関連した実務経験を有する教員が授業を行う場合に、「授業計画」にどのような実務経験をもち、授業科目にどのように活かしているかを記載してください。また、検索が可能なように「授業計画」の文末に【実務】と記載してください。

参考（高等教育段階の教育費負担軽減新制度 機関要件の確認への対応ポイントより）

○ 大学等が要件を満たして「確認」を受けることで、在籍する学生等が授業料減免と給付型奨学金の対象となる。

○ 各学校種の設置基準により、卒業に修得が必要となる単位数の1割以上、実務経験のある教員による授業科目が配置され、学生がそれらを履修し得る環境が整っていること。

○ 必修科目か、選択科目かは問わない。また、学部等共通科目でも可。

○ 「実務経験のある教員による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目でも可。

○ 全ての学部等が要件を満たすことが必要であるが、学問分野の特性等により満たすことができない学部等については、大学等が、やむを得ない理由や、実践的教育の充実に向けた取組を説明・公表することで要件を満たすものとする。ただし、単に「困難である」といった一般的、抽象的な理由や、財政的・時間的な理由では認められない。合理的な理由を具体的に示すことが必要である。

○ どの授業科目が「実務経験のある教員による授業科目」であるかを授業計画（シラバス）等で学生等に対し明らかにすることが必要であり、明らかにしている授業科目を計上する。

Q 「実務経験のある教員による授業科目」とはどのような授業科目を指すのですか。

A 担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っていることが必要です。（実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を生かしているとは言えない場合は対象とはなりません。）また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う授業や、学外でのインターンシップや実習、研修を中心に位置付けている授業など、主として実践的教育から構成される授業科目については、実務経験のある教員による授業科目に含むものとします。どのような実務経験をもつ教員がその教員の担当する授業科目にどのように活かしているか、大学等がシラバス等において学生等に対して明示していることが必要です。

Q シラバスにはどの程度の詳細に記載しなければなりませんか。教員の経歴などを詳細に記載する必要がありますか。

A どの科目が、実務経験のある教員の授業科目であるかが学生等に分かることが重要です。履修を選択する学生等にとって「どのような実務経験をもつ教員が、その実務経験を生かして、どのような教育を行っているか」が明確に分かるかどうかという視点に立って、記載内容を検討してください。

Q 「実務経験のある教員による授業科目」であることは必ずシラバスに記載する必要がありますか。

A どの授業科目が「実務経験のある教員による授業科目」であるか、学生等が分かるように、授業方法や内容、到達目標等とあわせて、シラバスに明記いただくことが必要です。

8. 「項目④授業外学習指示」については、「1単位45時間の学習内容」が必要であることに鑑み、学生に授業外学習のために、授業形態と単位数に応じた学習時間分に対応する予習・復習などの課題等について記載してください。〔最大全角 200 文字〕
9. 「項目⑤教科書」、「⑥参考書」については、授業で使用する教科書及び参考書を各々の欄に記載してください。
10. 「項目⑦評価基準・方法」については、まず、「定期試験」を「筆記試験、口述試験、報告書審査、作品・実技審査」のいずれで行うのかを記載してください。
次に、「項目①授業目標」で選択した授業目標の観点「(1) 知識/理解, (2) 思考/判断, (3) 関心/意欲, (4) 技能/表現, (5) その他 ()」に対応させ、何を評価するのかという評価規準 (criterion) やその量的能力水準である評価基準 (standard) をもって記載してください。
なお、評価方法としては、次のような記載が考えられます。
(例) 定期試験 (50%), 中間テスト (実施しない), 小テスト・授業内レポート (20%),
授業外課題レポート (20%), 授業への参加度 (取組, 発表) (10%), その他 (特になし)
11. 「項目⑧備考」については、履修条件等の特殊要件、授業で使用する用具・機器の持参などの特別の指示、履修に際しての学生の心構えなどを記載してください。常勤教員は、オフィスアワーの曜日・時間帯についても、併せて記載してください。〔最大全角 1,000 文字〕
12. 再課程認定で提出したシラバスに関しては、必ず転記する形で記載してください。また、文科省からの指摘等により修正を行った場合は、最終的に提出したシラバスの記載をお願いします。再課程認定でのシラバスについて、確認を行いたい場合は教務課へご相談ください。

SYLLABUS [授業計画]

開講年度 授業コード 開講学年 開講学期 曜日時限

科目名 単位数

教員名 講義室

免許科目 免許対象

教務課
記載

授業目標 《観点》1.知識/理解 2.思考/判断 3.関心/意欲 4.技能/表現 5.その他

授業計画(内容・方法を含む)

	AL	EN	内容・方法	(担当教員)	授業外学習指示
第1回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第2回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第3回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第4回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第5回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第6回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第7回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第8回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第9回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第10回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第11回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第12回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第13回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第14回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
第15回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			

教科書

参考書

評価基準・方法 《定期試験》1.筆記試験 2.口述試験 3.報告書審査 4.作品及び技術審査

備考 メッセージ、オフィスアワー

履 修 カ ル テ

所属 _____

(小・中・高・幼用)

学籍番号 _____ 氏名 _____

取得希望免許 _____

教員として求められる事項

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
 ②社会性や対人関係能力に関する事項
 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項

科目区分	授業科目	総合 評価	評価項目	事項No.	項目 評価	コメント
教育科目 (必修)	教師論		教職の意義及び教員の役割	①		
			教員の職務内容	①		
	教育原論		教育の理念と教育に関する歴史及び思想	①		
			教育の現状と今後の課題	①		
	発達と学習の心理学		子どもの心の発達と学習	③		
			授業の心理学	③		
	教育の社会的研究		教育と社会との関わり	①		
			学校の役割と機能	③		
	道徳教育の研究		道徳教育の理念と歴史	④		
			道徳性の発達理論と道徳教育の指導法	④		
	教科外活動の研究		教科外活動の意義と課題	④		
			教科外活動の理論と指導法	③		
	教育の方法と技術		授業づくりの理論	④		
			授業の指導法	④		
	生活の指導と相談A		生徒指導・進路指導の理論と方法	③		
			生徒指導・進路指導の課題と展望	③		
	生活の指導と相談B		心の発達と適応	③		
			教育相談の実際	③		
	幼児教育課程論		教育課程編成の意義と方法	③		
			指導計画作成の意義と方法	③		
幼児教育指導法A		幼児理解に基づく保育の展開	④			
		保育の今日的課題と指導法	④			
幼児教育指導法B		活動の展開と教師の役割	④			
		保育実践の反省・評価	④			
幼児の理解と指導		幼稚園教育の基本	①			
		幼児理解と指導方法	③			
教育 実地 研究	教育実地研究		実習の態度	①②③		
			学習指導	①②④		
			生徒指導	①②③		
	教育実地研究 (主免実習・副免実習)		実習の態度	①②③		
			学習指導	①②④		
			生徒指導	①②③		
教育実地研究 (主免実習)		実習の態度	①②③			
		保育実践力	①②④			
		幼児理解	①②③			
各 教科 の 指 導 法 ・ 小	科教育B		教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
	国語科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
	社会科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
	算数科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
	理科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
	生活科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④		
実践的判断力、構想力			④			
音楽科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④			
		実践的判断力、構想力	④			
図画工作科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④			
		実践的判断力、構想力	④			
体育科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④			
		実践的判断力、構想力	④			
家庭科教育A		教科の目標・内容・方法(理論)	④			
		実践的判断力、構想力	④			

科目区分	授業科目	総合評価	評価項目	事項No.	項目評価	コメント
教職に関する科目	各教科の指導法・中高	科教育C I	教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
		科教育C II	教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
		科教育C III	教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
	科教育C IV	教科の目標・内容・方法(理論)	④			
		実践的判断力、構想力	④			
	各教科の指導法・幼	科教育C I	教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
		科教育C II	教科の目標・内容・方法(理論)	④		
			実践的判断力、構想力	④		
保育内容研究・健康		教科の目標・内容・方法(理論)	④			
		実践的判断力、構想力	④			
保育内容研究・言葉	教科の目標・内容・方法(理論)	④				
	実践的判断力、構想力	④				
保育内容研究・表現	教科の目標・内容・方法(理論)	④				
	実践的判断力、構想力	④				
保育内容研究・環境	教科の目標・内容・方法(理論)	④				
	実践的判断力、構想力	④				
保育内容研究・人間関係	教科の目標・内容・方法(理論)	④				
	実践的判断力、構想力	④				

科目区分	授業科目	総合評価	評価項目	事項No.	項目評価	コメント	
教科に関する科目	科研究A II		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④			
			教科に関する科学的・創造的研究	④			
	科研究B II		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④			
			教科に関する科学的・創造的研究	④			
	小学校	国語科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		社会科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		算数科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		理科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		生活科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		音楽科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		図画工作科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		体育科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		家庭科研究A I		教科の内容・教材についての基礎的な理解・研究	④		
		科研究B I		教科に関する科学的・創造的研究	④		
		科研究B I		教科に関する科学的・創造的研究	④		
	科研究B I		教科に関する科学的・創造的研究	④			
	科研究B I		教科に関する科学的・創造的研究	④			
幼稚園・中学校・高校			特記事項 (G P A 値による学修支援・指導の記録等)				

履 修 カ ル テ

(養護教諭用)

所属 _____

学籍番号 _____ 氏名 _____

取得希望免許 _____

教員として求められる事項

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②社会性や対人関係能力に関する事項
- ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
- ④教科・保育内容等の指導力に関する事項

科目区分	授業科目	総合評価	評価項目	事項No.	項目評価	コメント
教職に関する科目	養護教諭論		養護の意義及び教員の役割	①		
			養護教諭の職務内容	①		
	教育原論		教育の理念と教育に関する歴史及び思想	①		
			教育の現状と今後の課題	①		
	発達と学習の心理学		子どもの心の発達と学習	③		
			授業の心理学	③		
	教育の社会的研究		教育と社会との関わり	①		
			学校の役割と機能	③		
	道徳教育の研究		道徳教育の理念と歴史	④		
			道徳性の発達理論と道徳教育の指導法	④		
	教科外活動の研究		教科外活動の意義と課題	④		
			教科外活動の理論と指導法	③		
	教育の方法と技術		授業づくりの理論	④		
			授業の指導法	④		
生活の指導と相談B		心の発達と適応	③			
		教育相談の実際	③			
生活の指導と相談C		心の発達と適応	③			
		教育相談の実際	③			
教育実地研究	教育実地研究 (養護実習)		実習の態度	①②③		
			養護活動	①②④		
			生徒指導	①②③		
養護に関する科目			特記事項 (GPA値による学修支援・指導の記録等)			

<授業計画（内容・方法を含む）>

例：生活科教育A

生活科の学習指導要領に示された目標及び9つの内容などについて、小学校で担任として生活科授業を担当した経験を活かし、実例を紹介したり児童用教科書を活用したりしながら、具体的に解説する。また、学習指導案の書き方についても実例をもとに行う。【実務】

例：体育科研究A

小学校学習指導要領体育の各領域におけるカリキュラムの計画と指導方法について、実践を通じて研究する。学校現場での実務経験を活かし、実践上の課題を踏まえながら工夫改善の視点を提供する。【実務】

学務ネットによるシラバス作成について

1. 学生にとって、より理解しやすく、より見やすくすることに十分留意の上、情報を入力してください。

非常勤講師担当の授業については、関係の教務担当委員又は任用を依頼した組織の世話役の教員から、シラバス作成を依頼してください。

なお、非常勤講師の方の学務ネットへのアクセスは、以下を参照してください。

- 1) 既に本学 ICT 教育基盤センターネットワークの ID・パスワードを持っている方は、その ID・パスワードで学務ネットにログインし入力できます。
- 2) 本学 ICT 教育基盤センターネットワークの ID・パスワードを未取得の方は、ICT 教育基盤センターネットワーク利用申請書を提出することにより、ID・パスワードを取得できます。

ICT 教育基盤センターネットワーク利用申請書アドレス <http://www.auecc.aichi-edu.ac.jp/>

2. 学部 1～4 年生，入力済の大学院の授業科目については，前年度原稿の更新又は新規作成により，また，未入力の授業科目は，新規作成を行ってください。

その際，授業コードを検索キーとして登録することとなりますので，学務ネットにログインして，画面上部に表示される「シラバス登録」をクリックして表示される授業名称から選択して，入力してください。

※ 前年度コピー

前年度（2018 年度）の内容を複写（コピー）する場合は，作成したい年度の授業科目を選択し，画面右上に表示された [コピー] ボタンをクリックしてください。

表示された「シラバスコピー」の画面で，コピー元である授業の「年度」と「授業コード」を指定して [コピー] ボタンをクリックすることにより，作成年度の授業科目のシラバスとして表示されます。必要に応じ修正した後に [公開] ボタンをクリックすることで，この授業のシラバス入力作業は完了です。

なお，学務ネットによるシラバス作成は，担当外の授業科目については，修正することが出来ませんので，ご承知置きください。

3. 非常勤講師の方は，ICT 教育基盤センターネットワークの ID を取得していただき，教務課へ学務ネット利用の申し出ていただくことで，前記 2. の方式によりご自身で入力することができますが，常勤の教員により非常勤講師担当科目のシラバス作成を代行する場合は，後記 4. の方法でお願いします。

4. 学務ネットを利用できない場合は、電子媒体で作成したシラバス原稿を、教務課あてにメール（アドレス：kyoumu@aecc.aichi-edu.ac.jp）で提出いただくか、前年度（2018年度）のシラバスを朱書き訂正した書面等を教務課へ提出いただければ、代行して登録・入力します。

※ CSVデータの修正

教務課に申し出ていただくことにより、前年度のシラバスの内容をCSV形式のデータとして抽出してお渡しできます。このCSV形式のシラバスデータを修正したものを教務課へ提出していただければ、教務課が一括して登録します。

※ ワードファイル等のデータ提供

公開するシラバスの内容を、メールの本文もしくはワードファイル等の電子媒体の添付ファイルにて教務課へ提出していただければ、教務課が代行して入力します。

※ 朱書き修正

公開されているシラバスを、シラバス検索画面等で表示して印刷し、修正箇所を朱書き修正して教務課へ提出していただければ、教務課が代行して修正入力します。

5. シラバス公開については、翌日朝に教務課が公開に必要な操作をすることにより公開されます。また、公開後も修正は可能です。（当該年度12月末日まで）

【連絡先】

学務ネットの操作にご不明な点等がありましたら教務課教務情報係（内線 2698）もしくは kyoumu@aecc.aichi-edu.ac.jp へご連絡願います。

【第37回教授会(2009.6.24)提案,承認事項の抜粋】

教科研究科目(S2)の教育目的・教育目標・授業目標などについて提案

S2全体及びAI, BI, AII, BIIの教育目標は次頁以降に記載。ただし,引き続き内容を吟味し,必要な修正を行うものとする。

S2の授業科目(教科)ごとに,その教育目的に則した「教育目標」を設定する。さらに,この「教育目標」を承け,担当教員がシラバスを作成する。

科目ごとの教育目標は,総括的目標として一般目標,方向目標^{*}を記述するものとし,その案文は次頁のとおり。

担当教員(非常勤講師を含む)によるシラバス作成(2月頃締切)前に,次のことの合意形成を行う。

- (1) 教科の教育目標とシラバスの授業目標等との間に,整合性を持たせる。
- (2) シラバス中に記載事項^{**}として授業目標及び評価基準・方法の記載について

シラバスの授業目標は,上記の目標を承けて,下記のように評価基準・方法間に整合性を持たせ,行動目標,到達目標^{*}を記述するように努める。

- ◆内容的要素→「～について」⇔質的判断の根拠(評価基準 criterion)→「何を評価するのか」
- ◆能力的要素→「～ができる」⇔量的判断の根拠(評価基準 standard)→「どの程度であるのか」

※一般目標:一般的・抽象的な内容と観察できない認知過程を表す動詞から構成される目標

方向目標:できるだけよくできるようになることが望ましいような目標

行動目標:個別的・具体的な内容と観察可能な行動を表す具体的な行為動詞から構成される目標

到達目標:必ず到達すべき目標 (「教育評価辞典」(図書文化,2006)を参照)

※※シラバスに記載する項目は, a)教員免許に係わる事項, b)授業目標, c)授業計画(授業内容と方法を含む。), d)教科書・参考書等, e)評価基準・方法, 及び f)備考

教科研究科目の教育目標

I 教科研究科目 (S₂AI, BI, AII, BII)

専門的な諸科学との関連において、小学校各教科の内容・教材についての基礎的な理解、研究を図り、教科に関する科学的、創造的な探求を目的とする。

○各教科の教育目標

国語科研究 国語科の目標は、国語を的確に理解し適切に表現する言語能力を子どもに身につけさせることにある。子どもの日常的なコミュニケーション能力を育てるとともに、「読むこと・書くこと・聞くこと・話すこと」といった言語活動を通じて思考力・表現力を養うことが求められる。国語を教えようとする学生たちに、自らがそのような言語能力を養いながらも、具体的な作品・教材研究への視点など専門性を養い、授業のための実践力を獲得させることを目標とする。

社会科研究 小学校社会科教育を前提に、その課題に迫るための内容や方法を研究する。それらの課題は、現在の世の中のありようという角度から捉えれば法経社の分野の問題になり、空間的な関係の問題として捉えれば地理学の分野に属する。時間的にみれば歴史の分野、人間の内面を理解するためには哲学の分野についての知見を深めなければならない。そうした根本の部分で、担当教員が自らの専門を中心としつつも全体的な目配りの下に、学生に認識させ、将来この教科を児童に教えるための基礎的視点や技能を育成することを目標とする。

算数科研究 数学での見方・考え方を踏まえながら、算数科の内容についての基礎的・基本的な理解を図り、算数的活動を通じた教材作成のための様々な視点を獲得することを目標とする。

理科研究 小学校理科で取り扱う内容について、観察・実験を中心とした授業に基づき、その意義、具体的な指導の方法、及び、取り扱いの留意点を理解するとともに、自然科学への興味や身近な自然に親しむ心を育む内容に触れ、その原理や仕組みなどについて探求できる。以上により、将来、指導するために不可欠な基礎的能力と観察・実験の技能を身に付ける。

生活科研究 小学校低学年に設置された生活科の教科的特質についての理解を図り、生活科への関心を高めることを目標とする。その際、「身近な人々、社会および自然」という生活科学習におけるかかわりの対象についての認識を深めるとともに、実際の教材開発に必要な資質や技能を身に付ける。

音楽科研究 教育現場において教員として音楽の授業を行う際に必要な知識と技術を学習し、小学校音楽の内容・教材についての基礎的な理解、研究を図ることにより表現（うた・演奏）と鑑賞による集団としての豊かなコミュニケーション及び創造する喜びを認識し深める能力を培う。

図画工作科研究 表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うという教科の特性を理解し、その実践上の諸問題について具体的な事例や実習をもとに研究する。

体育科研究 小学校体育科の学習内容を理解し、児童に基本的な身体能力を身につけさせるための適切な運動経験とそのための具体的な手立てについて学ぶとともに、指導法や教材を科学的、創造的に探求する資質と能力を身につける。

家庭科研究 家庭科では、子どもが直面する様々な生活課題を取り上げ、それらを解決する方法を、諸科学を駆使して探求し、行動することが求められる。家庭科が学びの対象とする私たちの生活は多面性を持ち、多様に変化し、多くの現代的課題を抱えていることを理解する。その理解に立ち、子どもの生活現実に照らした家庭科の教材理解や教材研究を行う。その際生活の実態と課題について、背景の諸科学と現代的課題に即して総合的・理論的・実践的に検討し、創造的に探求することを目標とする。

II S₂AI

専門諸科学との関連において、小学校各教科の内容や教材についての基礎的な理解と研究を図ることを目的とする。

○各科目の教育目標

国語科研究 国語科は言語それ自体を教える教科であること、技能的側面と内容的側面の両方があることなど他の教科とは異なる国語科の特質を理解させようとして、教材研究の方法・指導案の書き方・授業への視点・評価の観点など、国語を授業するうえで必要な内容について概要をつかむ。

社会科研究 小学校社会科で取り扱う社会的事象についての基礎的理解をはかり、児童に対する「社会的見方・考え方」の基礎を培うことができるような資質を養うことを目標とする。

算数科研究 加法と減法、乗法と除法を統一的に捉えた上で算数教科書を読解する活動、具体的な算数問題の作成、諸性質や法則を見出そうとする探求的な活動を通して、「数と計算」および「図形」領域を中心として、算数科のすべて内容領域における基礎的・具体的な教材とそれに関わる教材体系について理解を深めることを目標とする。

理科研究 小学校理科で取り扱う内容について、観察・実験を中心とした授業に基づき、その意義、具体的な指導の方法、及び、取り扱いの留意点などを理解するとともに、身近な自然に親しむ心を育む内容に触れ、その仕組みを探究できる。以上により、将来、指導するために不可欠な基礎的能力と観察・実験の技能を身に付ける。

生活科研究 生活科研究 AI では、生活科において取り扱われる学習内容について学習指導要領に基づいて基礎的な理解を図るとともに、その一部について具体的な授業のビデオを視聴したり、体験的活動に取り組むことにより生活科への興味を持たせることを目標とする。

音楽科研究 音楽科研究教材曲集を用い、うたと伴奏の同時表現が可能な唯一の楽器であるピアノの演奏技術の習得を通して、音楽の内容・教材についての興味をより喚起する。実質的には楽譜から音楽の仕組みや基本であるメロディ・リズム・ハーモニーの読み方を理解することにより、基礎的技能を身に付ける。

図画工作科研究 小学校学習指導要領の目標及び内容をふまえ、「造形遊び」、「絵に表す」、「立体に表す」「工作に表す」「鑑賞」などの造形表現活動・鑑賞の領域における基礎的な内容と実践的な事例についての学習を通して図画工作科における教科の特性について幅広く理解することを目指すとともに、実習を通して教材研究も行う。

体育科研究 体育授業の素材となる運動課題の実践例を広く知るとともに、運動領域の実技・演習を通して運動課題の具体的方法と意図について理解できるようにする。

家庭科研究 小学校家庭科の内容は「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」などから構成されている。AI では、家庭科が学びの対象としている私たちの生活は多面性をもち、それぞれが有機的に関連して成り立っていることを理解する。その上でこれらの内容のうちいずれか又はいくつかを中心にしながら、生活の実態や課題について把握するための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

III S₂BI

専門諸科学との関連において、小学校各教科に関する内容を、科学的・創造的に探求することを目的とする。

○各教科の教育目標

国語科研究 国語科の特質あるいは独自の観点について理解を深めるとともに、文学的文章・説明的文章あるいは言語教材を具体的に対象としながら、教材研究の方法を学ぶ。また、弱点を発見し補いつつ実践的な応用力を身に付ける。

社会科研究 小学校社会科で取り扱う社会的事象について、それを掘り下げて調べるための技術や方法を学び、具体的な事例を通して主体的に考察できる能力を養うことを目標とする。

算数科研究 算数科4領域のうち、重要ではあるけれども指導が困難といわれる内容について、算数科で重視されている算数科活動を実際に体験しながら基礎的な理解を図り、具体的に教材研究ができることを目標とする。

理科研究 小学校理科で取り扱う内容について、観察や実験指導により、その意義、具体的な指導の方法、及び、取り扱いの留意点を理解するとともに、自然科学への興味を育む内容に取り組み、原理や仕組みなどを自ら探求できる。以上により、将来、指導するための観察・実験の技能と、興味を引き出す実験計画を立てる能力を身に付ける。

生活科研究 生活科研究BIでは、生活科で扱う内容を焦点化して取扱い、その内容の理解をいっそう深めることを目標とする。その際、学生が主体的に関わることのできる具体的・直接的な体験活動を重視することにより、生活科の授業を指導するために必要な資質や技能を身につける。

音楽科研究 ピアノの演奏技術の習得のみでなく、楽曲を構成するメロディ・リズム・ハーモニーを各視点から的確にとらえ総合的にまとめ創造的表現に結びつけてゆく能力を目指し、音楽科における教科指導の実践力量の補完・拡充を図る。

図画工作科研究 小学校学習指導要領の目標及び内容をふまえ、「造形遊び」、「絵に表す」、「立体に表す」、「工作に表す」、「鑑賞」などの造形表現・鑑賞領域のうち、特定分野の発展的な内容と実践的な事例についての学習を通して、図画工作科における教科指導のための知識の補完、拡充を図る。

体育科研究 体育授業の素材となる運動課題の実践例をより広く知るとともに、運動領域の実技・演習を通して運動課題の具体的方法と意図について理解を図り、さらに運動課題を創造できるようにする。

家庭科研究 小学校家庭科の内容は「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」などから構成されている。BIでは、AIで学んだ基礎を踏まえつつ、これらの内容のうちいずれかまたはいくつかを中心としながら、より深く生活の実態や課題について把握し、さらにこれらの課題の解決方法を模索し、行動する能力を身につけることを目標とする。

IV S₂AI I

専攻教科に対応する小学校教科に関する科学的、創造的な探求を行い、その教科の内容・教材の研究について、主導的立場を担える基礎的能力を養うことを目的とする。

○各教科の教育目標

国語科研究 国語科の「読むこと・聞くこと・話すこと・書くこと」のそれぞれの領域についての基礎的知識を習得し、国語科教育の本質・内容・構造などについて理解する。また、文学的文章・説明的文章など言語・文章の特質に応じた教材研究や表現・作文指導などについて専門的な力を身につける。

社会科研究 小学校社会科で取り扱う社会的事象についての理解を深めるとともにその背景を探究させ、最新の研究内容と教育との関連を考察できる能力を養うことを目標とする。

算数科研究 数学的な見方・考え方の視点としてたとえば集合論を取り上げ、それを駆使して実際に数の体系を構成したり、算数教科書にある直感的な表現や、指導上の前提となっている事柄を、数学的に整理し定式化したりする活動を通して、「数と計算」領域を中心として、数学的な見方・考え方の視点からその内容領域における教材およびそれに関わる教材体系について理解を深めることを目標とする。

理科研究 理科研究 A II と理科研究 B II により、主に小学校理科における物理、化学、生物、地学の4分野の内容に関し、その意義、具体的な指導の方法、及び、取り扱いの留意点を理解するとともに、理科の興味深さや奥深さを体験する内容に取り組み、その原理や仕組みについて自ら探究することができる。以上により、教育現場での指導や教材開発について主導的立場を担える能力の基盤を養う。理科研究 A II では物理・生物分野を扱う。

音楽科研究 歌唱、楽器、鑑賞、音楽理論を概観しながら、ピアノ伴奏、歌唱、その他音楽を指導する際に必要な知識や技術などに関する実践的な視点を育むと共に、教材研究への関心を高めることを目標とする。

図画工作科研究 小学校学習指導要領の目標及び内容をふまえ、「造形遊び」、「絵に表す」、「立体に表す」、「工作に表す」、「鑑賞」などの造形表現活動の分野における基礎的な内容と実践的な事例についての学習を通して、教科の基礎的な特性について幅広く理解し、教材研究を行うことができるような能力を養う。

体育科研究 体育授業の素材となる運動課題の実践例を広く知るとともに、運動領域の実技・演習を通して運動課題の具体的方法と意図について体育諸科学と関連づけて理解できるようにする。

家庭科研究 家庭科では、子どもが直面する様々な生活課題を取り上げ、それらを解決する方法を、諸科学を駆使して探究し、行動することが求められる。家庭科が学びの対象とする私たちの生活は多面性をもち、多様に変化し、多くの現代的課題を抱えている。その理解に立ち、子どもの生活現実と発達課題に照らした家庭科の内容理解や教材研究を、衣食住をめぐる消費生活の実態と課題について、総合的・理論的・実践的に検討し探究することを目標とする。

V S₂BII

専攻教科に対応する小学校教科に関する科学的、創造的な探求を行い、その教科の内容・教材の研究について、主導的立場を担える基礎的能力を養うことを目的とする。

○各教科の教育目標

国語科研究 国語科の歴史・専門用語・最近の状況など発展的な内容について理解を深めるとともに、具体的な教材を対象としながら「読むこと・聞くこと・話すこと・書くこと」の教材研究の力量を形成する。また、指導の実際や評価の観点など授業展開のための実践的な観点を身につける。

社会科研究 社会科の学問的背景と特質、その研究の現状、それらと関連する教材の研究・開発などについて学生に考察させ、将来、現場で社会科を教える上での中心的な役割を果たすことができるような基礎的能力を育成することを目標とする。

算数科研究 数学的な見方・考え方の視点としてたとえばユークリッド幾何学を取り上げ、図形を理論的に構成したり記述したりすること、一般化や抽象化といった数学での考え方に基づいて問題を解決したり、発展的に問題を作成したりすることを通して、「図形」「数量関係」領域を中心として、数学的な見方・考え方の視点からその内容領域における教材およびそれに関わる教材体系について理解を深めることを目標とする。

理科研究 理科研究 AⅡと理科研究 BⅡにより、主に小学校理科における物理、化学、生物、地学の4分野の内容に関し、その意義、具体的な指導の方法、及び、取り扱いの留意点を理解するとともに、理科の興味深さや奥深さを体験する内容に取り組み、その原理や仕組みについて自ら探求することができる。以上により、教育現場での指導や教材開発について主導的立場を担える能力の基盤を養う。理科研究 BⅡでは化学・地学分野を扱う。

音楽科研究 小学校の音楽の授業の中で取り扱われている活動を体験することで、その難しさやその活動に込められている意味等を再認識する。また、それらを指導する際に必要な知識と技術を身に付けると共に、指導する際に留意すべき点などを考察する。「知っている」と「出来ること」が異なることを自覚した上で、教師として子ども達の前に立つ前に、原点に帰って学習指導のための基礎的な力を身に付ける。

図画工作科研究 小学校学習指導要領の目標及び内容をふまえ、「造形遊び」、「絵に表す」、「立体に表す」、「工作に表す」、「鑑賞」など造形表現活動のうち、特定の分野における発展的な内容と実践的な事例についての学習を通して、教科指導に関する知識の補完、拡充を行い、教材研究を主体的に行うことができるような能力を養う。

体育科研究 体育授業の素材となる運動課題の実践例をより広く知るとともに、運動領域の実技・演習を通して運動課題の具体的方法と意図について体育諸科学の知見と関連づけて理解し、さらに運動課題を創造的に工夫できるようにする。

家庭科研究 家庭科では、子どもが直面する様々な生活課題を取り上げ、それらを解決する方法を、諸科学を駆使して探求し、行動することが求められる。家庭科が学びの対象とする私たちの生活は多面性をもち、多様に変化し、多くの現代的課題を抱えている。その理解に立ち、子どもの生活現実と発達課題に照らした家庭科の内容理解や教材研究を、個人・家族・地域・社会などの多様な関係性における家族・家庭生活の実態と課題について、総合的・理論的・実践的に検討し探求することを目標とする。